

# プラタナス

那須赤十字病院 広報誌

No. 14

平成28年8月発行

Japanese Red Cross Nasu Hospital

 日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

那須赤十字病院



診療科紹介  
緩和ケア

事務部長紹介  
就任のあいさつ

特集  
熊本地震での救護活動報告について

登録施設紹介  
医療法人 社団 萌彰会 那須脳神経外科病院

マイタウン・マイホスピタル  
ミニニュース

お知らせ

熊本地震における  
巡回診療風景





石川 和由部長

## 那須赤十字病院における緩和ケアについて

緩和ケア部長 石川 和由

4月より当院緩和ケアに赴任してまいりました石川和由と申します。

当院では緩和ケア病棟・緩和ケア

外来・緩和ケアチームの3本柱で、主にがん患者さんとご家族を対象に、診断を受けたときから時期を問わず、痛みや吐き気などの「身体的なつらさ」、気持ちの落ち込みや不眠などの「精神・心理的なつらさ」、経済面や生活面などの「社会的なつらさ」、考え方や信仰などの「スピリチュアルなつらさ」を和らげ<sup>※1</sup>「生活の質（QOL）」を向上させていけるよう努めてまいりたいと思っております。

### 《緩和ケア病棟について》

全室個室で20床あり、がん自体を治すことが難しい状況にある患者さんのための入院施設です。がんに対する積極的な治療（抗がん剤治療、手術など）、身体の負担になるような処置・検査、単なる延命のための措置や

蘇生術などは基本的に行いません。各診療科の医師や経験豊富なスタッフと協力しながら、様々なつらさを

出来る限り和らげ少しでも自分らしい日々を送れるよう支援することや、症状が安定している場合には外来や在宅への円滑な移行を支援することなどを行っています。現在は院内から移動してくる場合がほとんどですが、今後は他施設からも受け入れができるよう準備を進めていきたいと考えております。県北唯一の緩和ケア病棟として地域に貢献できるよう努めてまいりたいと思えます。

### 《緩和ケア外来について》

毎週木曜日午後には、患者さん・ご家族と一緒につらさを出来る限り和らげていけるよう支援をおこなっています。また、他施設から当院緩和ケア病棟入院希望の方は、一度外来を受診の上面談させていただき入院の適

否を判断させていただくことになりました。

### 《緩和ケアチームについて》

当院一般病棟に入院されている患者さんを対象とし、週1回多職種によるチームで病室を訪問したうえでカンファレンスを行い辛さを和らげる方法を考えていきます。緩和ケアという分野は、まだまだ誤解も多く、皆さんに十分に認知されていないのが現状です。そのため、皆さんに広く知っていただけるようお願いしています。

マンパワー不足で地域のニーズに十分対応しきれないところもあるかと思いますが、今後ともご指導のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

※1 生活の質（QOL）病気や障害を持ちながら、それぞれの生活の質を保つことが出来るかという意味

# 地域の為の緩和ケアを目指します。



唐橋 正弘事務部長

## 「マイタウン・マイホスピタル」 地域密着型を目指します。

平成28年4月、新事務部長に唐橋正弘事務副部長が就任し、4ヶ月が経ち今後の抱負をいただきました。

### 就任のあいさつ

事務部長 唐橋 正弘

私は、今年の4月に事務部長に就任いたしました。

昭和55年4月に、旧大田原赤十字病院に入職して以来、37年目を迎えることができました。

私が入職した当時は、病床数350床で、当時は大変大きな病院という印象がありました。その後、数年をかけて病床数を増やし、平成14年には、病床数556床の病院となりました。

しかし、病床数を増やすことで、建物自体は増築を重ね、当時は、まるで迷路のような病院でした。

平成24年7月、既に皆様もご存知の那須赤十字病院と生まれ変わり、県北では唯一の三次救命救急病院として、屋上と地上の2カ所にドクターヘリあるいは防災ヘリ用のヘリ

ポートを設置しております。

また、当院は地域がん診療連携拠点病院として日本人の死亡原因の第一位である「がん」の治療に積極的に取り組み、県北では唯一の緩和ケア病棟もあります。

早期発見、早期治療という観点から、予防医学センターを設置し、予防医学と生活習慣病対策の強化も行ってまいります。

当院は、日本赤十字社の使命でもあり、災害拠点病院として、災害救護・支援には特に力を入れており、近年では、東日本大震災や茨城県常総市での鬼怒川氾濫、最近では、熊本地震などの災害発生時には、「救護班」や「医療コーディネーター要員」を現場に派遣し、医療支援活動を行ってまいりました。

また、医療支援活動のほかに、災害地における、現地の方々への「こころのケア」等の健康支援も行い、災害地

での健康で安全な生活を取り戻すため、地域に根ざした様々な支援活動を実施しております。

以上のように、当院は、地域における役割また日本赤十字社としての役割を果たすべく、高度医療の推進、三次救急医療の充実、地域医療連携システムの強化などによって更なる病院の発展と地域の皆様そして患者さんのため、よりよい医療の提供と地域完結型病院を目指しております。

今年で、新病院となり5年目を迎え、地域の方々の信頼のもと、マイタウン・マイホスピタル「地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に」を基本理念として、職員一人ひとりが一丸となり邁進努力してまいります。

## この度発生した「平成28年熊本地震」について那須赤十字病院より 災害医療コーディネート、救護班の合計2班が出動いたしました。

### 派遣日程

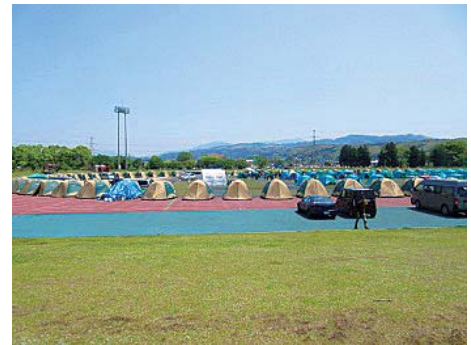
■日赤災害医療コーディネート員 3名  
平成28年4月28日(木)～5月4日(水)7日間(実働期間4/29～5/3)  
医師1名 看護師1名 主事1名

### 平成28年熊本地震 — 日赤災害医療コーディネーターの活動 —

那須赤十字病院救命救急センター センター長 長谷川 伸 之

平成28年4月14日・16日の震度7(2回)、その後の活発な余震活動を主体とする『平成28年熊本地震』は熊本市周辺の市町村をはじめ、阿蘇地域や大分県に及び、甚大な被害を発生させました。発災早期より、DMATチームや日赤救護班をはじめ多くの災害医療チームが熊本に参集し、それぞれの地域において活動を行いました。

栃木県<sup>\*1</sup>災害医療コーディネーターである私は、日本赤十字社においても災害医療コーディネーターの任務を兼ねており、昨年9月の『関東・東北豪雨災害』でも、常総市で医療機関、避難所救護所、日赤救護班、現地対策本部などで調整業務を行いました。



#### 4/28から5/4までの7日間の日程

今回は、発災後約2週間が経過した4月28日から5月4日までの1週間、上益城医療圏域(主に、益城町)の現地災害対策本部、そこが管轄し日赤が救護所を展開している避難所(広安小学校、広安西小学校、エミナス、益城総合体育館など)、熊本県支部内日赤現地災害対策本部において調整業務を行いました。災害のフェーズとしては、亜急性期から慢性期へ移行しつつある時期ではありましたが、超過密状態の避難所生活の方、車で寝泊まりをされている方など、まだまだ落ち着かない状況が続いていました。



#### 益城町の現地災害対策本部での活動では

益城町の現地災害対策本部は、通称“ハピネス”という保健所に避難所や救護所が同居しており、町役場の職員、自衛隊員、ボランティア、医療本部の関係者が忙しく業務をし雑居状態でした。さらに、医療本部は、郡市医師会長を本部長に、兵庫県<sup>\*2</sup>JMATチームと<sup>\*3</sup>DMATロジスティックチームが補佐を行い、日赤救護班10チームをはじめとする様々な医療チーム(国立病院機構、JMAT、<sup>\*4</sup>AMDA、薬剤師会、歯科医師会、整復師会、栄養士会、リハビリなど)が指揮下に入り巡回業務や救護所業務を行っていました。



#### 日赤災害医療コーディネーターの活動として

私の任務としては、益城町の現地災害対策本部と日赤熊本県支部にいるコーディネーターとの情報共有、救護活動の提供、医療ニーズと救護活動の見通しについてのアドバイス、エコノミッククラス症候群巡回チームの提供、心のケアチームとDPATの協働など状況に合わせた医療活動の調整を行うことでした。

災害が発生するたびに様々なチームが被災地に参集する時代になりましたが、こうしたチームが一つになって活動してこそ被災者のためにより良いものが提供できます。こうした目的で、災害医療コーディネーターは活動しています。

<sup>\*1</sup> 災害医療コーディネーター 大規模災害が発生した際に適切な医療体制の構築を助言したり、医療機関への傷病者の受入れ調整などの業務を行う医師

<sup>\*2</sup> JMAT 日本医師会が被災地に派遣する災害医療チーム

<sup>\*3</sup> DMAT 災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム

<sup>\*4</sup> AMDA アジア地域の医師ら医療関係者で組織される医療チーム

派遣日程

■那須赤十字病院救護班 9名

平成28年4月30日(土)～5月6日(金)7日間(実働期間5/2～5/4)

医師2名 看護師4名 主事3名

平成28年度熊本地震における・救護班の活動について

那須赤十字病院 救命救急センター 副センター長 林 堅 二

今回、我々は4月14日午後9時26分に発災した前震(震度7)および4月16日午前1時45分に発災した本震(震度7)の熊本地震により甚大な被害を受けた熊本県熊本地方で災害救護活動を行って参りました。

4/30から5/6の7日間の日程

日本赤十字社が繋ぐ災害救護活動の班として医師2名、看護師4名、薬剤師1名、主事2名の計9名で隊を編制し、前6名は空路にて現地入りし5/1～5/5の5日間、後3名は陸路にて現地入りし4/30～5/6の7日間の日程で、主に応急救護所や公設避難所での診療、巡回診療の他、巡回による現地実態調査などを行いました。

診療に関しては、応急救護所や公設避難所での診療では脳血管疾患や外傷などの急性期疾患から呼吸器・循環器・消化器疾患などの慢性期疾患と幅広い分野での疾患で受診される方がいました。

また、巡回診療では精神的サポートを必要とされている方々も多く\*1「赤十字こころのケア班」への引き継ぎも行ないました。

避難者数および車中泊避難者数の把握などを実施

現地実態調査に関しては、非公設避難所数や避難者数および車中泊避難者数の把握などを行いました。避難者の殆どは公設避難所に移動されておりましたが、未だ非公設避難所や車中での寝泊まりを行っている避難者も多かったため、公設避難所への移動を促すとともに、ロングフライト血栓症(旧名:エコノミークラス症候群)による健康被害の啓蒙活動も併せて行いました。

今後の救護班の医療提供について

医療者としての我々の活動は極々微力ではありますが、今後も赤十字救護班がシームレスな災害医療活動を繋ぎ、被災地の方々により良い医療提供を行えるよう願っております。

熊本県の一日も早い復興と被災された方々が一日も早く平穏な生活を取り戻せるよう、隊員一同心よりお祈り申し上げます。

\*1「赤十字こころのケア班」 日本赤十字社は災害時の「こころのケア」を災害救護時の重要な柱の一つと位置づけ指導者の養成、全国の救護班員に対する研修を実施。



こちらのコーナーでは日々当院と連携いただいている各医療施設を紹介していきます。今回は「那須脳神経外科病院」の院長、また今年度より那須都市医師会長に就任された深町 彰先生をご紹介します。



深町 彰院長

## 先生にインタビュー

**当院との連携について期待されていることはどの様なことですか？**

当院は専門病院ですが、他の疾病を合併していることが多いため、そういう場合に那須赤十字病院に紹介することが今まで多かったと思います。これからよりしくお願いいたします。

先日、那須赤十字病院に紹介した破傷風の患者さんを助けてもらったことがありました。破傷風は50%の死亡率です。2〜3ヶ月後、治った方が診察室に入ってきて、「助かりました」といわれて、大変嬉しい思いをしたことがあります。救急外来の飯島先生をはじめ、担当してくれたグループに感謝しています。

また、我々との連携は比較的スムーズに行っていると思います。脳外科同士もよく知っていますし、意識障害が強かったり、あるいは重篤な心臓疾患を合併している、手術になりそうな方がここで行なうのが難しい時、直ぐ那須赤十字病院は応じてくれて、有り難いと思っています。佐藤先生、井端先生はじめ、皆さんのお陰だと考えています。

私は那須都市医師会長をしている為、あえて期待するとしたら、那須赤十字病院にしても、国際医療福祉大学病院にしても、得意分野、所謂、専門医が

揃っている分野と十分には揃っていない分野とがおそらくあるのではないかと推測しています。そういった時にお互いに上手く連携が出来ていると正直有り難い所です。

県北は人材が集まりにくい場所のため、難しいことは百も承知ですが、高い理想を持ちますと、いずれ県北内にて全部の疾患がコントロール出来るようになれば良いということが我々の希望です。

**毎日お忙しいと思いますが、休日どのようにすごしていますか。**

天気良ければ妻とゴルフに出掛けます。1日座っているため、休日歩かないと運動不足になります。雨の日は読書が買ひ物づきあいでしょうか。

**地域の方々、患者さんへ一言お願いします。**

医師の数が少ない現状ですので、十分対応出来ないことがあり、迷惑をかけていると思います。

今、診療の際に生命保険、障害者年金、自動車の免許更新等の診断書、介護保険の意見書を書いて欲しいと依頼されますと、あっという間に20〜30分過ぎてしまいます。時間を取ることが出来る人であれば後で来て頂き、時間の

### 基本情報



- 院長 深町 彰(ふかまち あきら)
- 住所 那須塩原市野間字神沼453-14
- 電話 0287-62-5500
- 診療科目 脳神経外科、神経内科、循環器内科、放射線科
- 病床数 合計100床(一般50床、回復期リハビリテーション50床)
- 休診日 祝祭日

ある時に書き、渡し、あるいは予め書いて、それを渡したりする状況であり、二重手間になり、患者さんには申し訳ないと思っています。しかしそれにも最近上記のような書類書きがふえたことに、閉口しています。

## 4月 第50回がんのつどい

### 12名参加/4月2日(土)

毎月第1土曜日に実施しているがんのつどいは、去る4月2日に第50回を終了しました。第1回目は平成23年7月2日3名の参加からスタートしました。がんのつどいの参加者が「がん患者と家族の会」を立ち上げるなど、着実に歩みを進めております。第1回から50回まで、のべ73名平均12名の参加。参加くださる方々の笑顔に支えられ、第100回を目指します。



記念の第50回の参加者のみなさんと病院スタッフ

## 5月 病診連携懇談会

### 142名参加/5月19日(木)

当院では病診(病院と診療所)・病病(病院と病院)連携を積極的に実施して\*1「かかりつけ医」の推進を行っております。当院マイタウンホールにて地域の先生方との連絡会と、引き続き懇親会も実施されました。

これからも地域の方々の為に、那須赤十字病院と近隣の病院・診療所をはじめとする関係機関との連携を大切に、地域の為に努力していきます。



マイタウンホールでの懇親会の様子

## ふれあい看護体験

### 35名の高校生が参加/5月21日(土)

毎年実施されている看護体験が、本年度は栃木県北の35名の参加の下実施されました。病院長からの任命式の後、病棟での看護体験、当院在職中の先輩看護師の体験談、各参加校での記念写真と盛りだくさんの内容となりました。今回の病院での体験で「看護師への夢を現実になりたい」など貴重な意見もありました。この経験が学生たちの将来の夢につながってくれることを期待しております。



病棟で患者さんのケアも実施

## 6月 那須赤十字病院後援会

### 役員会・総会・懇親会/6月6日(月)

勝田屋記念会館において役員会、17時から総会が開催されました。約80名の会員の方々にご参加いただき、その後の懇親会も大盛況でした。現在は個人会員が223名、法人会員が147名になりコンサートの実施、病院祭への協賛等沢山のご協力をいただいております。昨年度同様、新規会員募集の広報活動に力を注ぐ所存です。



総会では80名の参加で実施

## わくわくチャレンジ

### 今年度前期開催13名の参加

毎年近隣市町の中学生を受入れており、今年度前期開催は13名が参加してくれました。病棟の体験が中心となり充実した体験ができました。

病院での体験や経験が、学生たちの将来の夢に繋がってくればと期待して止みません。



充実した病院体験でした

\*1) かかりつけ医 患者さんやご家族の日常的な予防と治療、健康管理をおこなってくれる身近なお医者さん

## 那須赤十字病院 第9回がんの市民公開講座

日 時 平成 28 年 8 月 20 日 (土)

14:00 ~ 16:00

会 場 那須赤十字病院 2 階マイタウンホール  
入場無料

お車で来院される方は、駐車券を持って会場  
へいらしてください。

体験談 **「前向きに生きた妻」**

講師 外科医 古泉桂四郎先生

講 演 **「自分らしく生き抜き、  
自分らしく旅立つためには」**

講師 日本尊厳死協会副理事長  
埼玉社会保険病院名誉院長  
鈴木裕也先生

## インターンシップのご案内

### リハビリテーション科インターンシップ

日 時 平成 28 年 8 月 10 日 (水)  
10:00 ~ 16:30

持参する物 白衣・運動靴・筆記用具

申込・問合せ リハビリテーション科 池澤  
rehabilitation@nasu.jrc.or.jp

### 薬剤部インターンシップ

日 時 平成 28 年 8 月 18 日 (木) ~ 8 月 19 日 (金)  
2 日間

1 日目 13:30 ~ 17:50

2 日目 8:30 ~ 10:30

申込・問合せ 薬剤部 中丸  
a.nakamaru.nasu.jrc.or.jp

### 看護部インターンシップ

日 時 平成 28 年 8 月 3 日 (水)、10 日 (水)、  
17 日 (水)、24 日 (水)、31 日 (水)  
10:00 ~ 17:00

申込・問合せ 看護部 内線 2401  
kangobu-jimu@nasu.jrc.or.jp

## 編 集 後 記

夏本番! 夏祭り、花火大会、  
バーベキュー、楽しいイベント  
が沢山あると思います。熱中症  
にならないよう、こまめに水分  
補給をしましょう。

総務課 風間 孝子

プレゼント



## 本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください!

抽選で 3 名様に「CroKuma 救護服」「CroKuma ナース」  
「赤十字マグカップ」をプレゼントいたします。

以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募  
ください。

### ●応募先

郵送/ 〒324-8686 大田原市中田原1081-4

那須赤十字病院 総務課 プラタなす第14号 プレゼント係  
FAX/ 0287-23-3004

宛先「総務課 プラタなす第14号 プレゼント係」

メール/nrchp@nasu.jrc.or.jp

件名「プラタなす第14号 プレゼント係」

●応募締切り 2016年8月31日(水)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

## 今回の表紙

### 平成 28 年度熊本地震における救護活動

今回の表紙は、巡回診療時の林堅二医師による診  
察の様子です。診察に関して急性期疾患はもちろん、  
精神的なサポートが必要とされる方々もいらっ  
しゃいます。

熊本県の日でも早い復興と平穏な生活が取り  
戻せるよう、心よりお祈り申し上げます。

## 那須赤十字病院

基本理念

マイタウン・マイホスピタル  
～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さまの立場を尊重し、患者さまに信頼される病院をつくり  
ます。
3. 日々の研鑽を惜みず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につ  
くします。

## プラタなす 那須赤十字病院広報誌プラタなす No.14

発行日 2016年8月

発行者 那須赤十字病院 〒324-8686 大田原市中田原1081番地4

TEL 0287-23-1122 FAX 0287-23-3004

URL <http://www.nasu.jrc.or.jp> 印刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷